

TALK IN JAPANESE FOR 6 WEEKS

# WEEKLY

日本語で話す 6 週間

book 1

## 【トレーニングのヒント】 (week6 編)

\* トレーニングは、スポーツ感覚で体（口）に覚えさせましょう！

## Unit 26 「～と、～んです」

### \* 「と」で接続して、病気の症状表現がすらすら言える

#### 【用意するもの】

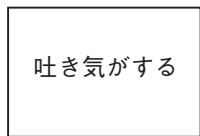
・病気症状表現の絵カード (p.103 「言葉を増やそう」 や、 p.150 のトレーニングにある表現など)。

※裏に表現を書いておく。

例)



(表)



(裏)

#### 【手順①】 症状表現が言える

①ペアになる。

②学習者 A がカードを 1 枚ずつ引いて、表面の絵を見て症状表現を言う。(※裏面は見ない)

③学習者 B は学習者 A が持っているカードの裏面を見て、学習者 A の答えが合っているかチェックする。



#### 【手順②】 症状表現とその原因が言える

①ペアになる。

②学習者のうち 1 人がカードを引く。

③学習者 A ・学習者 B の両方がそれぞれ原因を考え、「～と、～んです」を使って文を作る。

例)



## Unit 27 受身形

---

### \* 受身形がすらすら言える

(→ 「トレーニングのヒント (活用編)」 参照)

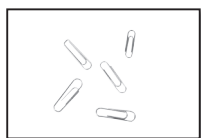
## Unit 28 「～ときに、使う」

\* 「～ときに、使う」の文がすらすら言える

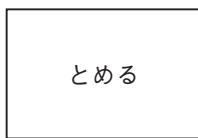
### 【用意するもの】

- ・表に説明する物の絵、裏に動詞が書いてあるカード (p.113 「練習しよう」 Q2 を参考に、p.110 「答えてみよう」の物など)

例)



(表)



(裏)

### 【手順】

- ①ペアになる。
- ②学習者 A が学習者 B にカードの絵を見せる。
- ③学習者 B が「～ときに、使います」の形にして、言う。

例)



紙をとめるときに、使います。



## Unit 29 「～ておいたほうがいい」「～ように／ないように、……」

### \* 「～ておいたほうがいい」の文がすらすら言える

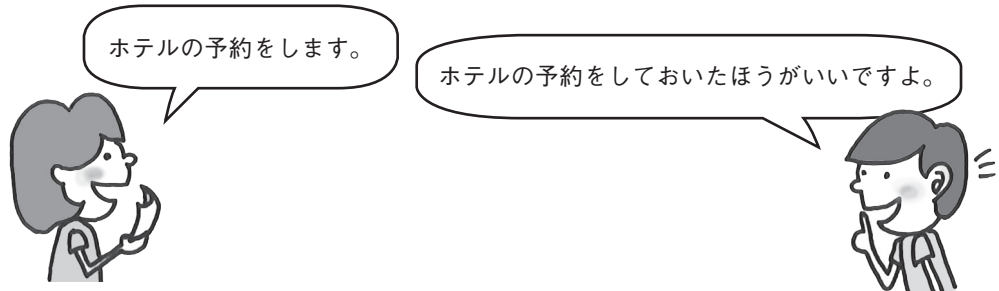
#### 【用意するもの】

- ・ p.153 のトレーニングなどを見ながら行う

#### 【手順】

- ① ペアになる。
- ② 学習者 A が、テキストを見ながら、キューとなる文を言う。
- ③ 学習者 B が「～ておいたほうがいいですよ」の形にして、言う。（※学習者 B は、テキストを見ない）

例)



### \* 「～ように／ないように…」を使って、アドバイスができる

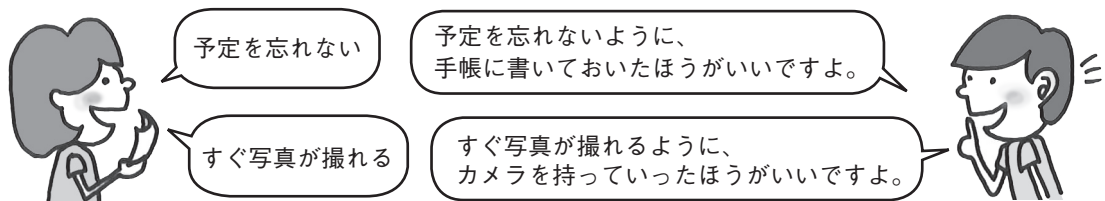
#### 【用意するもの】

- ・ 前件の事柄を書いたカード (p.117 「練習しよう」を参考に。)
- 例) 「道に迷わない」「予定を忘れない」「写真が撮れる」など

#### 【手順】

- ① ペアになる。
- ② 学習者 A がカードを引いて、読みあげる。
- ③ 学習者 B が「～ように／ないように、～ておいたほうがいいですよ。」の形にする。

例)



## Unit 30 「疑問詞＋たらいいですか」

\* 「疑問詞＋たらいいですか」の文がすらすら言える

### 【用意するもの】

・疑問詞のカード

例) 「いつ」「どこ」「何」「だれ」など

・動詞カード

例) 「食べる」「見る」「聞く」「行く」など

### 【手順】

①ペアになる。

②学習者Aが絵カードを2枚引く。

③学習者Bが助詞も考えて、「疑問詞＋たらいいですか」の文を作る。

例)

